

まえがき

北方森林学会の会員諸氏におかれましては、ますますご清栄のことと存じます。北方森林学会は、昭和 25 年の林学会北海道支部創立以来、本年度で 62 年目を迎えました。初代支部長は樹幹析解の中島広吉博士であり、昨年度は記念すべき第 60 回大会が柿沢宏昭会長のもとで執り行なわれ、あわせて北方森林科学会 60 周年記念シンポジウム「森林と林業の再生に向けた人づくり」が開催されました。

今年度 11 月 13 日に、札幌コンベンションホール（北海道札幌市）において開催されました第 61 回大会は、人間でいえば還暦を過ぎた 2 巡目の人生の始まりとも言える記念すべき大会でした。本大会は、日本木材学会北海道支部大会との合同開催となり、一般社団法人日本森林学会と一般社団法人日本森林技術協会とに共催をいただきました。一般参加者は 135 名に上り、研究発表件数は経営 6 件、保護 6 件、利用 2 件、林政 2 件、造林 31 件、立地 5 件、森林技術 3 件、防災 2 件の計 57 件（口頭発表 4、ポスター発表 53〈北方森林学会関係〉）に上りました。

同時に開催されたシンポジウムでは、『生物多様性保全をいかに地域で具現化するか？』というテーマで、中村太士先生（北海道大学大学院農学研究院）からは「全国（マクロ）から地域の特徴を知る－生物多様性の可視化」、山浦悠一先生（北海道大学大学院農学研究院）からは「土地利用の歴史から見た林業と生物多様性－オーバーユースからアンダーユース、そして win-win へ」、宇野裕之先生（北海道立総合研究機構環境科学研究センター）からは「エゾシカの過増加と森林植生－野生動物管理の視点」および高橋興世先生（北海道黒松内町環境政策課）からは「地域で具現化する－黒松内町の取組」について、それぞれ有意義なご講演をいただきました。

当日発表された研究のうち、論文として投稿された研究をレビュアーが校閲し、受理されたものを本論文集に掲載いたしました。北方森林学会での発表は、今後さらに展開される研究のシーズとしてきわめて重要なものです。ひとつひとつ積みあげた石垣の上にしか天守閣は立たないものです。貴重なご研究を発表いただいた皆様と、論文の査読・編集を担当いただいた皆様に心より敬意を払いますとともに、今後北方森林学会が、専門家と市民の情報交換の場として、また若手研究者の未来への足がかりとしてますます発展いたしますことを祈念いたします。

2013 年 2 月

北方森林学会
会長 丸谷知己

第61号 編集委員会

編集委員長	丸谷 知己	(北 大 院 農)
編 集 委 員	相澤 州平	(森林総研北海道)
〃	安久津 久	(道総研林産試)
〃	飯田 滋生	(森林総研北海道)
〃	石橋 聡	(森 林 総 研)
〃	上村 章	(森林総研北海道)
〃	宇都木 玄	(森 林 総 研)
〃	大野 泰之	(道 総 研 林 試)
〃	来田 和人	(道 総 研 林 試)
〃	北岡 哲	(森林総研北海道)
〃	久米 篤	(九 大 北 演)
〃	倉本 惠生	(森林総研北海道)
〃	黒丸 亮	(道 総 研 林 試)
〃	酒井 明香	(道 総 研 林 試)
〃	佐々木尚三	(森林総研北海道)
〃	渋谷 正人	(北 大 院 農)
〃	嶋瀬 拓也	(森林総研北海道)
〃	高橋 正義	(森 林 総 研)
〃	古家 直行	(森林総研北海道)
〃	滝谷 美香	(道 総 研 林 試)
〃	中川 昌彦	(道 総 研 林 試)
〃	津田 高明	(道 総 研 林 試)
〃	長坂 晶子	(道 総 研 林 試)
〃	宮本 敏澄	(北 大 院 農)
〃	八坂 通泰	(道 総 研 林 試)
〃	矢野 慶介	(林木育種北海道)
〃	山口 岳広	(森林総研北海道)
〃	渡辺 誠	(北 大 院 農)
事 務 局	尾張 敏章	(東 大 北 演)
〃	大川あゆ子	(東 大 北 演)